

きゅう た なか け じゅう た く
旧田中家住宅

1 棟

桁行10.38m 梁間8.41m 切妻造 茅葺 正面及び背面庇付き 棧瓦葺
 江戸時代後期・平成2年(1990)移築 / 昭和57年(1982)6月8日指定

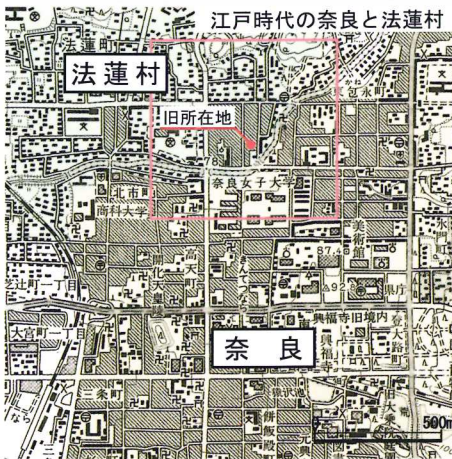
The Tanaka family's former Farm House

Width 10.38m, Depth 8.41m, Gable roof, Thatched roof
 Built between the late 18th cent. and the early 19th cent. (relocated in 1990) / Designated in 1982

ほうれんづくり
最古の法蓮造民家

この建物は、もと奈良市法蓮町にありました。18世紀末～19世紀初め頃の建築と推定されており、法蓮町（旧法蓮村）にのみ見られる「法蓮造」とよばれる農家建築のうち、現存最古のものともみられます。3室を一例に並べて表側のザシキと土間の境を土壁とする古い形式の間取りの様子をよく示しています。

昭和57年（1982）に解体された後、部材を保管していましたが、平成2年（1990）に現在地に移築し、復原しました。



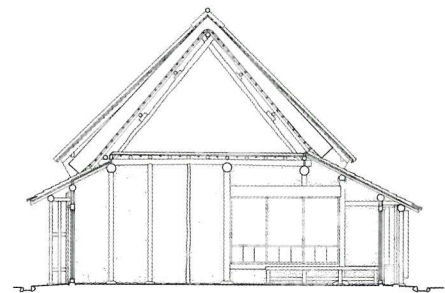
旧田中家住宅内部

法蓮造について

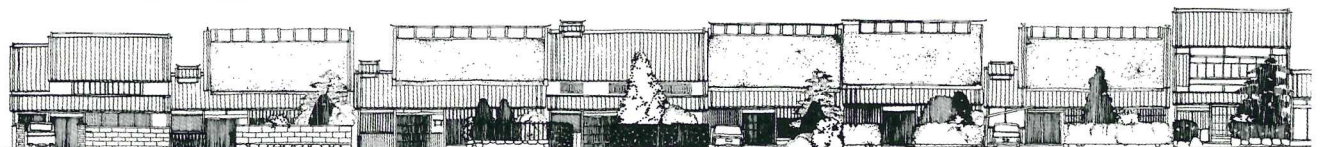
江戸時代の法蓮村は、市街地である奈良の町に隣接する農村でした。その辺りの農家は、町家のように、奥行きが深い宅地に隣の家と軒を並べて建っていました。正面に格子（法蓮格子と呼ばれる丸太の格子）を設けるのも町家風です。

一方で、土間の低い位置に「けむりがえし」の大梁を架ける点や、屋根を扱首組（合掌）、草葺きとする点などは、奈良にみられる一般の農家と同じです。

このように、法蓮造では、町家と農家の要素がみられるのが特徴です。



断面図 1/200



法蓮の町並み（昭和60年頃／一部復元）

復原について

民家は住生活の場であるため、家族構成・家業・生活様式などの変化に応じて改造されることがしばしばあります。旧田中家住宅では、出入口や窓などを変更し、牛小屋を車庫に、カマドをタイル張りのものに変え、背面は約 0.5m 広げ軒桁を高くしてナカノマ東側を畳敷きの部屋としていました。

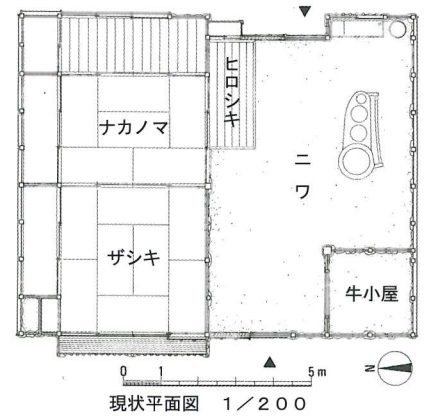
多くの改造がある場合でも、柱や梁などに残る痕跡を丹念に調べると以前の姿がわかります。旧田中家住宅の場合は、正面出入口・牛小屋・背面軒桁の高さなどは、当初の状態が判明しました。

しかし、背面の柱はすべて取り替えられていたため、背面側の壁や建具などの当初の様子を、正確に知ることはできませんでした。そのため、当初の姿に復原するにあたり、不明であった背面の出入口は正面にならない、その他は同時期の民家を参考に推定しています。また、側面外壁の板張りは、土壁が傷むのを防ぐため仮に設けたものです。

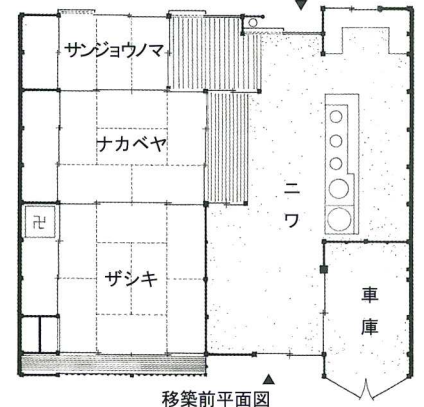
なお、強度などの点から再用できなかった部材のうち重要なものは、天井裏に保存しています。



移築前正面外観



現状平面図 1/200



移築前平面図

旧田中家住宅とむかしの暮らし

かつて田中家住宅の各部屋は、どのように使われていたのか、平成2年に田中家住宅を移築・復原した機会に、田中家の皆さんからお聞きした話をまとめてみました。

田中家のオモヤ（主屋）は、土間部分にニワがあり、床を張った部分にはザシキ（座敷）、ナカベヤ（中部屋）、サンジョウノマの各部屋がありました。

ニワは入り口から続く土間全体を指し、カマドやナガシなどの台所と牛小屋があります。カマドは最も重要な煮炊きの場であり、一番大きな釜をカマドサンと呼びました。カマドサンは年に一回、味噌作りの際に大豆を炊くのに用いましたが、それ以外は火の神である三宝荒神を祭って大切にしていました。普段は松や榊を飾り、毎日他の釜の蓋にご飯を盛って供えていました。カマドサンの上に物を置いたり、もたれたりしてはいけな^いとい^い、外出するときには必ず釜に蓋をするように戒められたとい^います。正月には釜に注連縄を巻き、餅を供え、灯明をあけてお祭りしました。また流しにも水神としてエビスサンやダイコクサンを祭りました。

ナカベヤから土間に突き出た板の間はヒロシキと呼ばれ、気心の知れた客と話すところであり、家族の食事の場所でもありました。

ザシキはカドに面した格子越しに見える部屋で、キゴシ（木越し）とも呼ばれました。正式の客間であり、床の間や仏壇はこの部屋に設けられ、盆に迎える先祖の霊もここでお祭りし、婚礼や葬式もこの部屋でおこなわれました。

ナカベヤは普段家族が過ごす部屋でした。ここには神棚が設けら

れ、春日大社や三輪神社などでいただいた札はがきが置かれていました。

ナカベヤの隣り、ザシキと反対側の部屋（オモヤで一番奥の部屋）は、サンジョウノマと呼ばれていました。もとは夫婦の寝室でしたが、田中家ではこの部屋にお産の神さんを祭り、子供が生まれるときは、この神さんを拝んだとい^います。このように家の一番奥まった場所と考えられていたところにある夫婦の寝室は、一般にナンドと呼ばれていました。そこには特別な霊力があると信じられていた例が多く、市内でも「ナンドの暗い家は金がたまる」とい^いって、この部屋をいつも暗くしておかなければならないという所や、収穫の神様であるイノコの神さんはここで祭るとい^う所もあります。

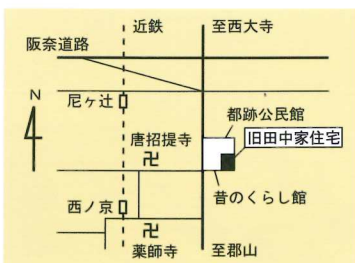
便所や風呂は屋外に作られました。便所は牛小屋の前と裏口の脇に作られて、牛小屋の方は牛の糞尿も一緒にたまるようになっていて、田畑の肥料に使いました。便所や風呂にも神さんを祭っていて、家を壊す時には、神さんがまだいるから出られるようにと、竹筒をさして息抜きを作っておきました。

かつての農家の人たちの暮らしは、今と比べると、質素でつましい生活でした。そこで営まれた人々の生活には、いろいろな面に明治、大正あるいはそれ以前のしきたりや生活様式が残っていたと考えられます。

(家屋各部の名称は田中家の方々のお話を参考にさせていただきました)



カマドサンの正月飾り



- 所在地：奈良市五条町 204-1
- 公開時間：午前 9 時～午後 5 時（入場は 4 時 30 分まで）
- 休館日：月曜日、国民の祝日（月曜日にあたる場合はその翌日）、年末年始
- 交通：奈良交通バス「唐招提寺東口」すぐ / 近鉄「西ノ京駅」・「尼ヶ辻駅」から徒歩 15 分 / 駐車スペース有り
- 連絡先：奈良市教育委員会文化財課 〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目 1-1 TEL. 0742-34-5369
- 所有：奈良市
- 入場料：無料